

本資料は、ブリistol マイヤーズ スクイブが 2023 年 5 月 26 日に発表しましたプレスリリースの和文抄訳であり、内容につきましては英語原文が優先されます。本プレスリリースに記載されている医薬品情報(本邦未承認情報を含む)は、ブリistol マイヤーズ スクイブに関連する最新情報をステークホルダーの皆様にお知らせするものであり、医薬品のプロモーションや宣伝・広告を目的とするものではありません。

ブリistol マイヤーズ スクイブ、PD-L1 発現レベルが 1%以上で再発リスクが高い  
切除可能な非小細胞肺癌患者の術前補助療法として、  
オプジーボと化学療法の併用療法の承認を推奨する CHMP の肯定的な見解を受ける

- この推奨は、オプジーボと化学療法の併用療法による術前補助療法が、化学療法単独と比較して、無イベント生存期間および病理学的完全奏効の改善を示した第Ⅲ相 CheckMate -816 試験の結果に基づいています。
- 承認された場合、オプジーボと化学療法の併用療法は、欧州連合において非小細胞肺癌患者に対する術前補助療法が許可された最初でかつ唯一の免疫療法薬をベースとした治療選択肢になります。

(ニュージャージー州プリンストン、2023 年 5 月 26 日) –ブリistol マイヤーズ スクイブ (NYSE : BMY/本社 : 米国ニューヨーク/CEO : ジョバンニ・カフォリオ) は、本日、欧州医薬品庁 (EMA) の医薬品委員会 (CHMP) が、PD-L1 発現レベルが 1%以上で再発リスクが高い切除可能な非小細胞肺癌 (NSCLC) の成人患者の術前補助療法として、オプジーボ (一般名 : ニボルマブ) とプラチナ製剤を含む化学療法の併用療法の 3 回投与の承認を推奨したことを発表しました。CHMP の推奨は、今後、欧州連合 (EU) で医薬品を承認する権限を持つ欧州委員会 (EC) によって審査されます。

ブリistol マイヤーズ スクイブのバイスプレジデント兼胸部がん領域開発担当である Abderrahim Oukessou (M.D.) は、次のように述べています。「肺がんの治療は進歩しているものの、残念ながら、現実には依然として多くの患者さんが最終的に再発し、亡くなる可能性があります。CheckMate -816 試験の結果に基づき、オプジーボと化学療法の併用療法は、術前の投与によって、切除可能な NSCLC の再発、病勢進行および死亡のリスクを低減した最初の免疫療法薬をベースとしたレジメンです。CHMP の推奨を受け、再発リスクを低減する可能性がある有効かつ忍容性が良好な術前補助療法の新たな治療選択肢により、欧州連合の特定の患者さんに疾患の経過を変える機会を提供するという喫緊のニーズの解決に向けて、一歩前進することができました。」

今回の肯定的な見解は、オプジーボと化学療法の併用療法の 3 回投与による術前補助療法が、化学療法単独と比較して、統計学的に有意かつ臨床的に意義のある無イベント生存期間 (EFS) および病理学的完全奏効 (pCR) の改善を示した CheckMate -816 試験の結果に基づいています。オプジーボと化学療法の併用療法の安全性プロファイルは、これまでに報告された NSCLC における試験のものと同様でした。CheckMate -816 試験の pCR、EFS および全生存期間 (OS) の予備データの主要解析は、以前に学会で発表され、ニューイングランド・ジャーナル・オブ・メディシン誌に掲載されました。本併用療法による持続的な臨床ベネフィットを示す 3 年間のデータは [2023 年欧州肺癌学会](#) で発表されました。CheckMate -816 試験では、OS を含む主な副次評価項目およびサブグループ解析の評価が進行中であり、引き続きデータの収集を進めていきます。

現在、オプジーボと化学療法の併用療法は、PD-L1 発現レベルにかかわらず、切除可能な NSCLC 患者の術前補助療法として、米国、日本および中国を含む 21 カ国で承認されており、世界の保健当局によって申請の審査が進められています。オプジーボによる治療法は、肺がん、膀胱がん、食道/胃食道接合部がんおよび悪性黒色種の 4 つのがん腫の術前補助療法または術後補助療法として、有効性が示されています。

ブリistol マイヤーズ スクイブは、CheckMate -816 試験にご参加いただいた患者さんおよび治療担当医師の皆様へ感謝の意を表明します。

## CheckMate -816 試験について

CheckMate -816試験は、切除可能なステージ I B～III Aの非小細胞肺癌（米国がん合同委員会/国際対がん連合病期分類第7版による）患者の術前補助療法として、オプジーボと化学療法の併用療法を化学療法単独と比較評価した多施設共同無作為化非盲検第III相試験です。主要解析には、患者358例がオプジーボ360 mgと組織型に基づくプラチナ製剤を含む化学療法2剤との併用療法を3週間間隔で3回投与する群、またはプラチナ製剤を含む化学療法2剤を3週間間隔で3回投与する群のいずれかに無作為に割り付けられ、その後、手術が施行されました。本試験の主要評価項目は、PD-L1の発現を問わない無イベント生存期間（EFS）および病理学的完全奏効（pCR）でした。副次評価項目は、全生存期間（OS）、Major Pathological Response（MPR）および死亡または遠隔転移までの期間（TTDM）等でした。

## 肺癌について

肺癌は、全世界でがんによる死因の第1位となっています。非小細胞肺癌（NSCLC）は、肺癌の中で最も一般的な型の一つであり、診断の最大84%を占めています。NSCLCと診断された患者の過半数が非転移性疾患であり（約60%、そのうち最大半数が切除可能）、今後がん検診プログラムが強化されるにつれて、さらに大きな割合を占めるようになると予測されています。非転移性NSCLC患者の多くが手術で完治するものの、切除したにもかかわらず30%～55%が再発し、がんで亡くなります。長期的なアウトカムを改善するために、手術前に投与（術前補助療法）および/または手術後に投与（術後補助療法）する治療選択肢が必要とされています。

## ブリストルマイヤーズスクイブ：がん患者さんのためのより良い未来を目指して

ブリストルマイヤーズスクイブは、「サイエンスを通じて、患者さんの人生に違いをもたらす」というビジョンを掲げています。がん研究で私たちが目指すのは、より良い健やかな日々をもたらす医薬品を患者さんにお届けすること、そして、がんの治癒を可能にすることです。私たちはこれまでも、さまざまながん腫において生存期間を改善してきました。その実績を足掛かりに、ブリストルマイヤーズスクイブの研究者は、患者さん一人ひとりに合わせた個別化医療の新たな地平を拓くとともに、革新的なデジタルプラットフォームによって得たデータをインサイトに変え、研究の着眼点を明らかにしています。卓越した科学的知見、最先端の技術および創薬プラットフォームにより、私たちは、あらゆる角度からがん治療にアプローチします。がんは、患者さんの人生のさまざまな場面に深刻な影響を及ぼします。ブリストルマイヤーズスクイブは、診断からサバイバースタップまで、がん治療のすべての側面に違いをもたらすべく尽力しています。がん治療のリーダーである私たちは、がんと闘うすべての人々の力となり、より良い未来を築くべく取り組んでいます。

## オプジーボについて

オプジーボは、身体の免疫系を利用して抗腫瘍免疫応答を再活性化するPD-1免疫チェックポイント阻害薬です。がんを攻撃するために身体の免疫系を利用するオプジーボは、複数のがん腫において重要な治療選択肢となっています。

業界をリードするオプジーボのグローバル開発プログラムは、ブリストルマイヤーズスクイブのがん免疫療法における科学的知見に基づいており、さまざまながん腫を対象に、第III相試験を含む全段階において広範な臨床試験が実施されています。今日に至るまで、オプジーボの臨床試験プログラムには、35,000人以上の患者さんが参加しています。オプジーボの臨床試験は、治療におけるバイオマーカーの役割、特に、一連のPD-L1の発現状況においてオプジーボが患者さんにどのようなベネフィットをもたらすかについて理解を深めることに役立っています。

オプジーボは、2014年7月に承認を取得した世界初のPD-1免疫チェックポイント阻害薬となり、現在、米国、欧州、日本および中国を含む65カ国以上で承認されています。2015年10月、ブリストルマイヤーズスクイブは、オプジーボとヤーボイの併用療法において転移性悪性黒色腫の適応でがん免疫療法薬の併用療法として初めて承認を取得し、現在、米国と欧州を含む50カ国以上で承認されています。

## オプジーボの適応症および安全性情報について

米国でのオプジーボの適応症および安全性情報については、原文リリースをご参照ください。

